

令和5年度

# 教育研究センター通信

No. 13

発行 12月22日



〒989-5171 宮城県栗原市金成沢辺西大寺 1-5 TEL/FAX 0228 (42) 1157

HP アドレス <https://www.kuriharacity.jp/li/010/030/040/040/index.html>

発行責任者 栗原市教育研究センター 所長 小野寺一浩

## 「研究の秋 授業づくり研修会」

学力向上に向けた授業づくり研修会での学び合いが続いています。

1つ目の外国語教育研修会では、11月29日に高清水小3年生「Unit 8 What's this?」の授業を担当の浅野茜先生と栗原南中の後藤彩子先生がTTで行いました。児童が外国語活動の授業を心から楽しんでおり、英語を聞き分ける耳が育っていたり自然な発音の児童が多く見受けられたりしました。ブラックボックスの中の品物を当てさせるアクティビティは、シンプルな上に児童の創造力や好奇心をかき立てる効果的な活動でした。中学校教員が児童の発音を○△で判断するという設定はおもしろく、中学校教員が発音してみせると児童がそうかと納得する様子が見られ、小中の連携がうまくいくと授業は楽しく成果も大きいことを感じさせられました。

12月18日に栗駒小5年生「Unit 6 What would you like?」の授業を担当の佐藤希美先生と栗駒中の長田可子先生がTTで行いました。児童が、前のめりで言語活動に取り組む姿が見られるなど、外国語の授業が好きでしょうがない様子が見られました。教師もはつらつとしていました。How are you?と問い、子供が答えて終わりではなく、その後子供同士のやりとりへと移行し、personalizeすることで、自分事として知識が駆動される場面をつくっていました。校外の先生方に加え、校内の先生方にも参観いただき、外国語教育における小中連携及び小小連携、そして校内中高学年連携の必要性について改めて確認する良い機会となりました。

2つ目のICT活用授業づくり研修会では、11月30日に鶯沢小6年生の国語「さまざまな生き方について考えよう」の授業を横山梓先生が行いました。総合教育センターの遊佐賢指導主事から「ICTを活用することに教師が慣れ、児童もICT（機器）を文房具のように活用できている」「どのように学習を進めていくのかを判断させる場面においては『思考ツール』を活用するのか『ジャムボード』を使うのか、自ら場面に応じて選択させていくことも考えていかななくてはならない」「ノートとタブレット内のシートは使い分けることが大切である」などの助言をいただきました。参観者からは「国語科での完全にICTのみで進める授業を見るのが初めてだったので大変参考になった」「視覚的に見やすくする工夫、思考を共有するための方法を学ぶことができた」などが出されました。



## 「第2回幼稚園研究主任研修会」

12月8日（金）に幼稚園の研究主任の先生方を対象に研修会を行いました。

園内研究がほぼ終了し、今年度の振り返りと来年度に向けての準備に向かうこの時期、「保育ドキュメンテーションの仕方」と「研究のまとめに向けて」各自が準備した資料や菊地・高橋両特任教授から提供された資料を基にグループごとに活発な意見交換が行われました。持ち寄ったドキュメンテーションには、ワクワクしながら活動する子供の姿があり、書き込みの内容から保育に生き生きと取り組む先生方の意気込みと保育への熱い思いを強く感じさせられました。ドキュメンテーションに取り組むことによって、子供の興味関心をとらえる視点が変わってきたり、目指す子供の姿が明確になってきたりするなど、保育への手ごたえを研究主任の先生方の会話から感じ取ることができました。

園内研究のまとめに向けては、これまでの形式を改善し、今年度の研究の成果と課題がより分かり易いまとめになるように、資料を基に意見交換が行われました。

事後の感想には「他園のドキュメンテーションを見て、保護者向け、幼児向け、いろいろなバージョンがあることを知りました。子供向けから遊びが広がっていくことがあったと聞き、真似してみようと思いました」「これから研究のまとめをするにあたり、どのような内容だと分かりやすいかを、皆で話し合うことができ、充実した時間となりました。各グループの資料を見比べ、検討したいと思います」などが寄せられました。

